

08

計画演習 I
1. 近畿圏の大学のためのセミナーハウス

開講年次：学部3年生後期

[担当教員]
三輪康一（教授） 末包伸吾（教授） 梶橋修（准教授）
[Teaching Assistant]
大野晴臣（A62） 橋本阿季（A62）

■大学内での活動としての講義や演習・実習とは別に、ある一定の期間、空間を共にし、集中した活動や共通の目的をもって活動する場が求められている。この課題は、近畿圏の大学共通施設として位置づけ、セミナーや共同制作、スタジオ、社会との連携など学内では難しい様々の活動に対して自由で豊かな場を提供することを目的としている。
敷地は、兵庫県立明石公園の東端の「球技場・自転車競技場」（県立図書館・市立図書館東隣）の土地を想定している。現在は公園に含まれるが、計画に際して公園用地から外し、敷地は北側道路に接道しているものとする。とくに南側の公園（薬研堀、桜堀）などの景観・環境上の調和が求められる。（薬研堀を設計に取り込みたい場合は水辺まで敷地として組み入れてもよい。）

■施設機能・所要室
以下の所要室はあくまで目安であり、変更は適宜可能である。ビロティ、吹き出し廊下等は面積に含めなくてよい。大きく研修機能と宿泊機能に分けて提示するが、一体的に扱うことも可とする。
A) 研修機能 2,200 m²程度
B) 宿泊機能 1,800 m²程度

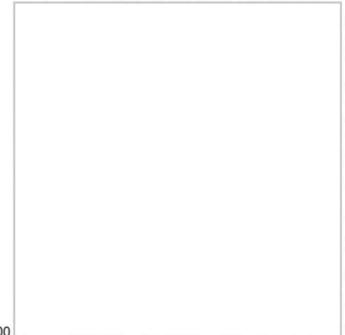
■提出図面
A1 の用紙にコンパクトにまとめること。
・全体配置図：scale 1/500
・各階平面図 立面図 断面図：scale 1/200

■計画敷地
別紙に示す敷地図をもとに「球技場・自転車競技場」の区域を各自が10,000 m²程度を設定しなさい。計画敷地への自動車でのアクセスは北側道路からとするが、人については、南側公園からのアクセスも可能とする。

■建築概要
建築施設の延べ面積は4,000 m²程度とし、階数、構造は自由とする。

■利用者
施設の利用者は主として大学生、大学院生、大学教員であり、15人単位（10人～20人）が6組宿泊でき、最大で150人の学生が共同で研修できる施設とする。また、指導教員や外来者が別に15人宿泊できる諸室を確保すること。

敷地図：S:1/5,000



遊びの空間 - 動線が交わる建築 -
瀬川端

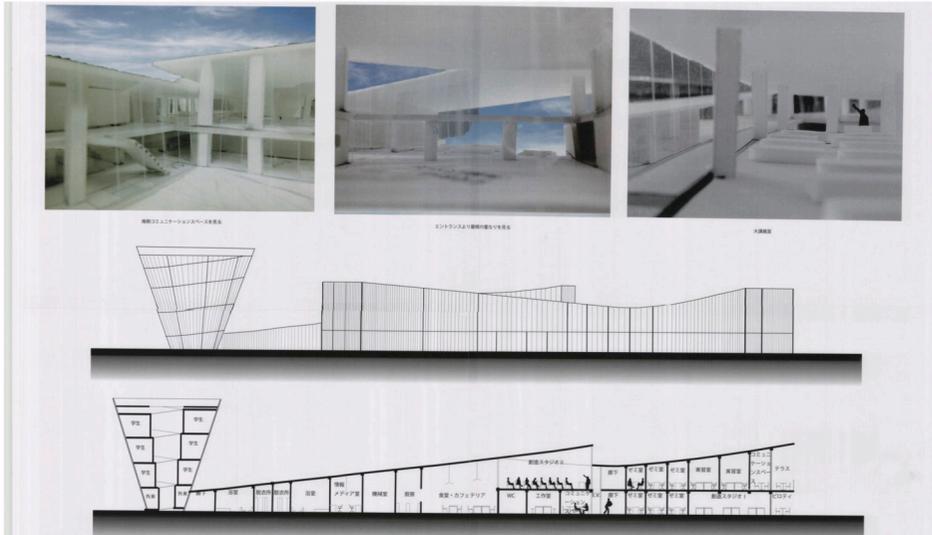
目に映る、ものや風景の境界線に迷わず墨を引く、荒々しく緻密な筆遣いが特徴的な雪舟のメモリアル空間を提案する。
中国水墨画に傾倒し、晩年に大成した画聖 雪舟の世界を辿る。



つながるみち

宮崎信

1つの大きな流れと幾つかの小さな流れが交差し、それぞれの場所で違った景色を見る。賑わう芝生広場と街を眺望できる場所の間に建築を設けることで人々が誘い込まれ、地域に新しい公園の認識や学生との関係性を持たせる。



expansion digital into analog

塚越仁貴

近未来体験型研修施設を、デジタル世界とアナログ世界の関係性より計画する。デジタルな情報社会の恩恵を最大に受けつつ、人間本来のアナログ性の価値をとりもどす。



回遊するセミナーハウスと公園の丘

田中はつみ

回遊するセミナーハウスと公園の丘。敷地である公園に、「private」「common」「public」の3つのスペースの交わり方を考える。3つのスペースが滑らかに繋がり、屋根の上が丘となり、人々が回遊する空間が、ここに生まれる。



ふたつの帯が隆起し、交じり、中庭を形成する

谷大蔵

privateとpublic、この対概念が同時に存在させる計画地に対して、壁で物理的、意識的に両者を分断して独立させるのではなく、自然な地形、高さや曖昧な壁ともとり得る建築が連続しながら様々なアクティビティを生み出すことを期待したい。

